

# LAN配線の工事区分の考え方

---

## ネットワークにおけるA工事とC工事の分担（LAN配線をA工事とする際の考え方）

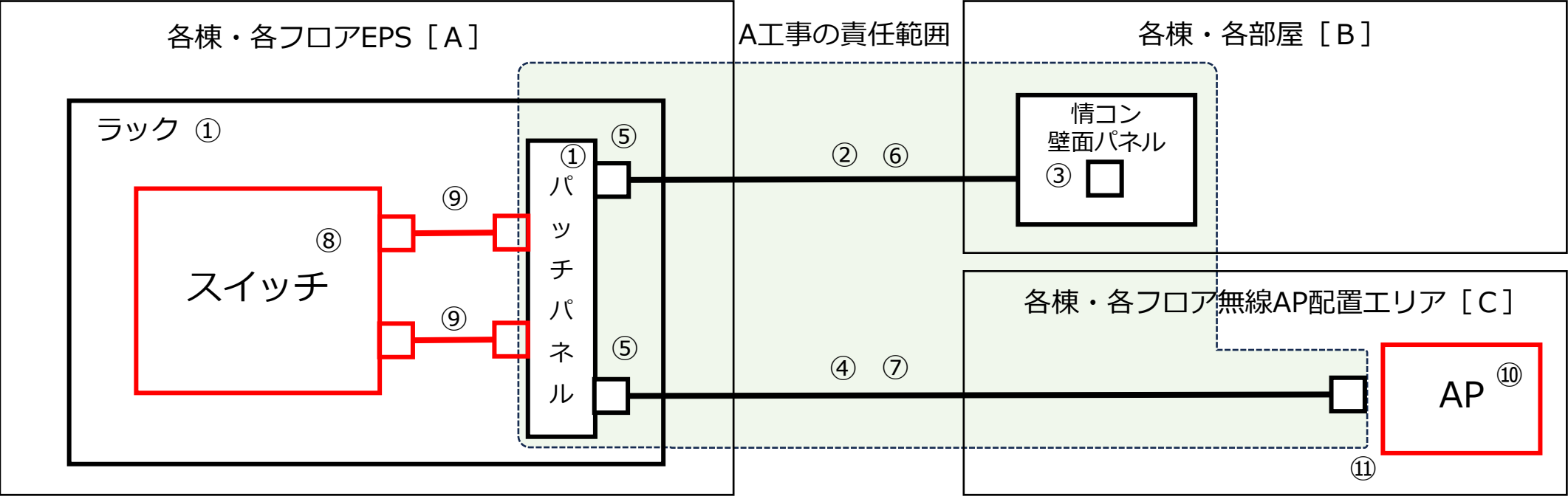
### ●目的

- 建築工事の工程と、建物引き渡しの時期、及び引き渡し後から施設稼働までの期間の各工程において、システム稼働時期（令和9年5月）を厳守できるよう、効率的にネットワークインフラを整備するため、建築本体工事（A工事）と、システム構築業者による工事（C工事）の工事区分（役割分担）を見直す。
- ネットワークインフラ整備のうち、LAN配線工事をA工事とすることで、建物引き渡し後の作業量を減らし、ネットワークインフラ整備全体としての工期を短縮する。

### ●基本の方針

- ◆ ネットワークインフラ整備の工事を分割した場合の責任分界点を明確にできるよう、主な終端間の経路に関する作業をA工事とする。
- ◆ 主な終端としては、サーバ室、各フロアのEPS、各部屋の情報コンセント、各フロアの無線APとする。
- ◆ サーバ室、各フロアのEPSは、多くの配線が集約される場所であるため、A工事にてパッチパネルを用意し、C工事との責任分界点をパッチパネルで分離する。
- ◆ 病院棟1F及び2Fは、回線数が多いこととEPSから100mを超える情報コンセントが発生するため、同一フロアを3分割し、各エリアに中継用スイッチを配置し、同一フロアのEPSから中継用スイッチまでの配線を行う。
- ◆ 施設間のネットワークについては、別途調達となる基盤システムが光ケーブルの敷設を想定しているため、多芯の光ケーブルを利用することでケーブル調達、配線工事の統合も考慮する。

[HIS系] 各棟におけるフロアEPSと各部屋情報コンセント・無線AP間のネットワークにおける工事区分



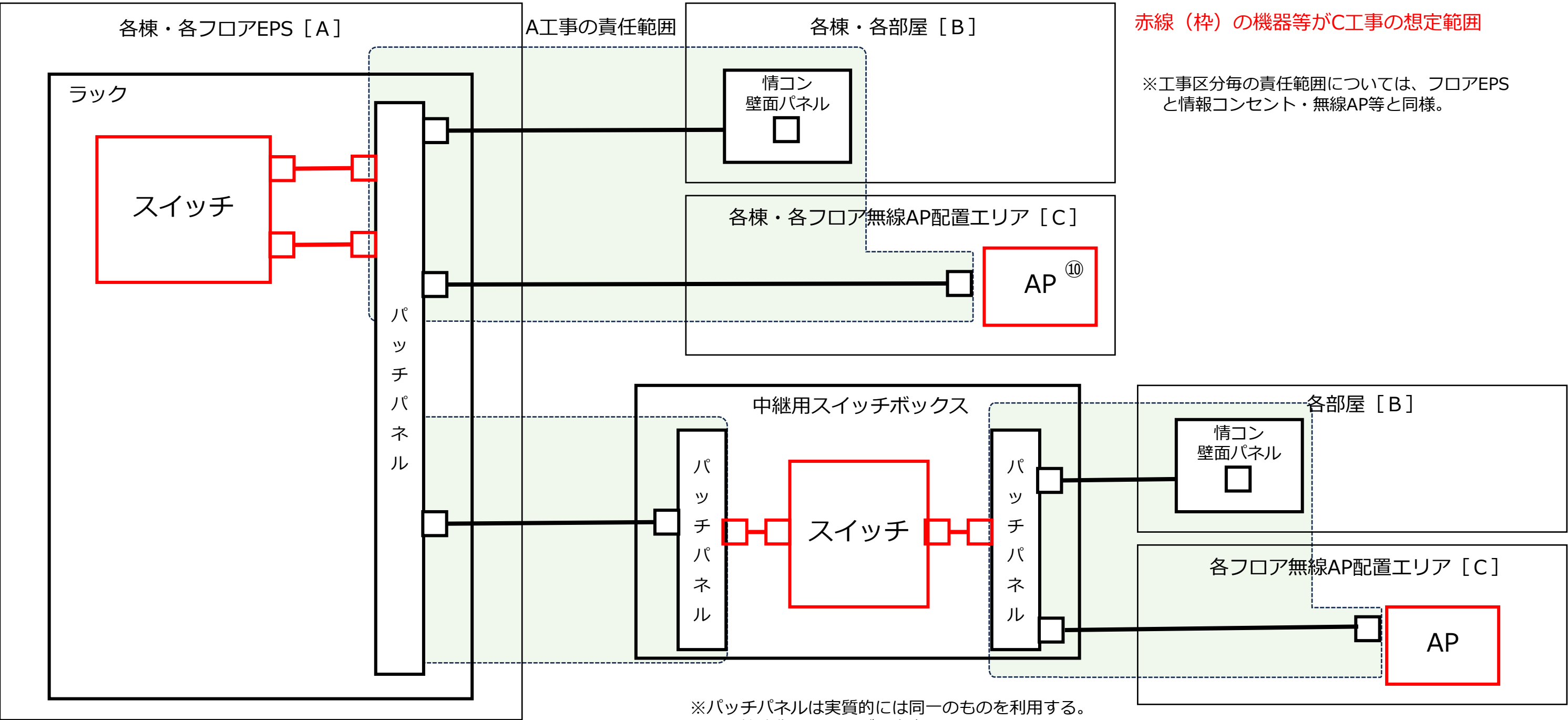
赤線（枠）の機器等がC工事の想定範囲

※場所Aと場所B及び場所C間が、100mを超える場合は中継が必要となる。特に1階は回線数が多くなるため、医事課内もしくは旧内視鏡エリアスタッフバックヤードに中継BOXを配置できるよう、電源と配線を用意する。

	工事内容	特記仕様	A工事 (建築工事)	C工事 (情報ベンダ工事)
①	場所A内設置用ラック及びパッチパネルの調達と設置	❑ ラックが配置できない場合は壁面設置用のHUBボックスとし、A工事で用意する木板に設置すること。	○	
②	場所A内パッチパネルと場所B 情報コンセント間用UTPケーブルの調達と敷設	❑ パッチパネル側のコネクタは、使用するパッチパネルに合わせて処理すること。 ❑ ケーブル両端に、経路を識別するネームタグを取り付けること。（ネームタグの命名規則は、C工事の業者と調整の上決定すること。）	○	
③	場所B内の各情コンとEPS間UTPケーブルの接続、及び情コンのパネルの完成		○	
④	場所Aパッチパネルと場所C無線AP間用UTPケーブルの敷設	❑ パッチパネル側はオス型コネクタ、無線AP側もオス型コネクタで処理すること。 ❑ 無線AP想定設置場所付近の点検口までUTPケーブルを敷設すること。（点検口から5mの余長を確保すること。） ❑ ケーブル両端に、経路を識別するネームタグを取り付けること。（ネームタグの命名規則は、C工事の業者と調整の上決定すること。）	○	
⑤	場所A内パッチパネルへの場所Bおよび場所C間UTPケーブルの接続		○	
⑥	場所Aパッチパネルと場所B情報コンセント間の通信テスト		○	
⑦	場所Aパッチパネルと場所C 無線AP用オス型コネクタ間の通信テスト		○	
⑧	場所A内設置スイッチの調達・設置と調整			○
⑨	場所A パッチパネルとスイッチ間のパッチケーブル調達と接続			○
⑩	無線APの調達と場所Cの電波調査と無線AP設置場所の決定			○
⑪	場所Cの無線APの設置と無線AP用オス型コネクタ間の接続			○

[HIS系] 病院棟 1 F及び2FにおけるフロアEPSと分散エリアのネットワークにおける工事区分

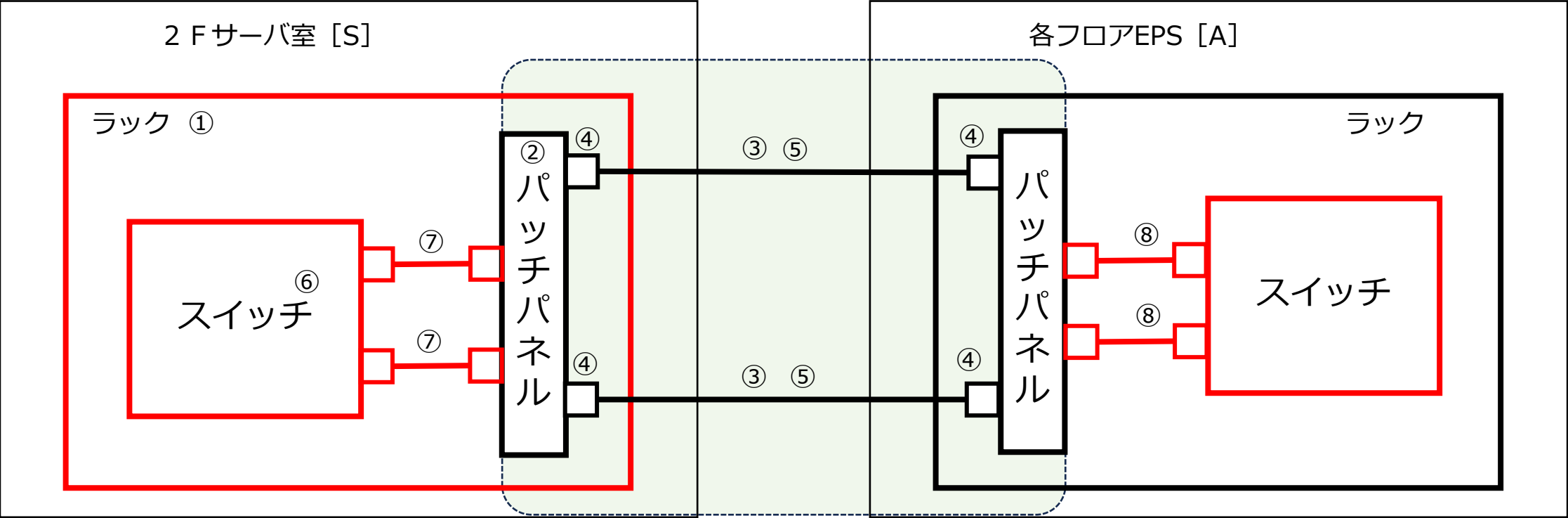
- 病院棟1F及び2Fは、回線数が多いことと、EPS1からの距離が100mを超える情報コンセント等の配置が発生するため、同一フロアを3分割してエリア毎に回線を集約し、各エリアのスイッチとEPSを中継する配線とする。
  - EPSと分割エリアのスイッチボックス間の配線もEPSと情報コンセント間等と同様に、A工事の責任範囲とする。



赤線（枠）の機器等がC工事の想定範囲

※工事区分毎の責任範囲については、フロアEPSと情報コンセント・無線AP等と同様。

[HIS系] サーバ室と各フロア間のネットワーク

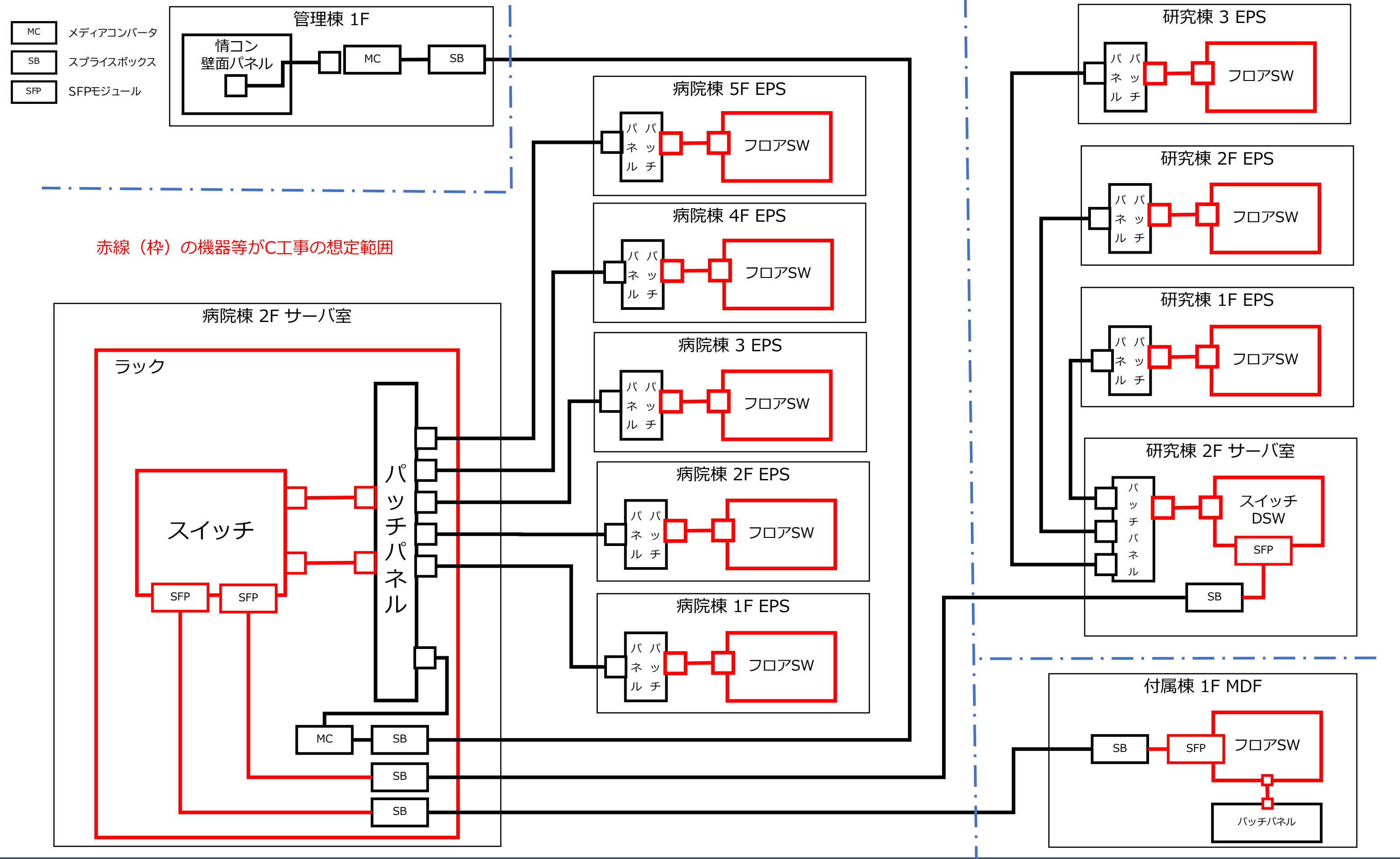


赤線（枠）の機器等がC工事の想定範囲

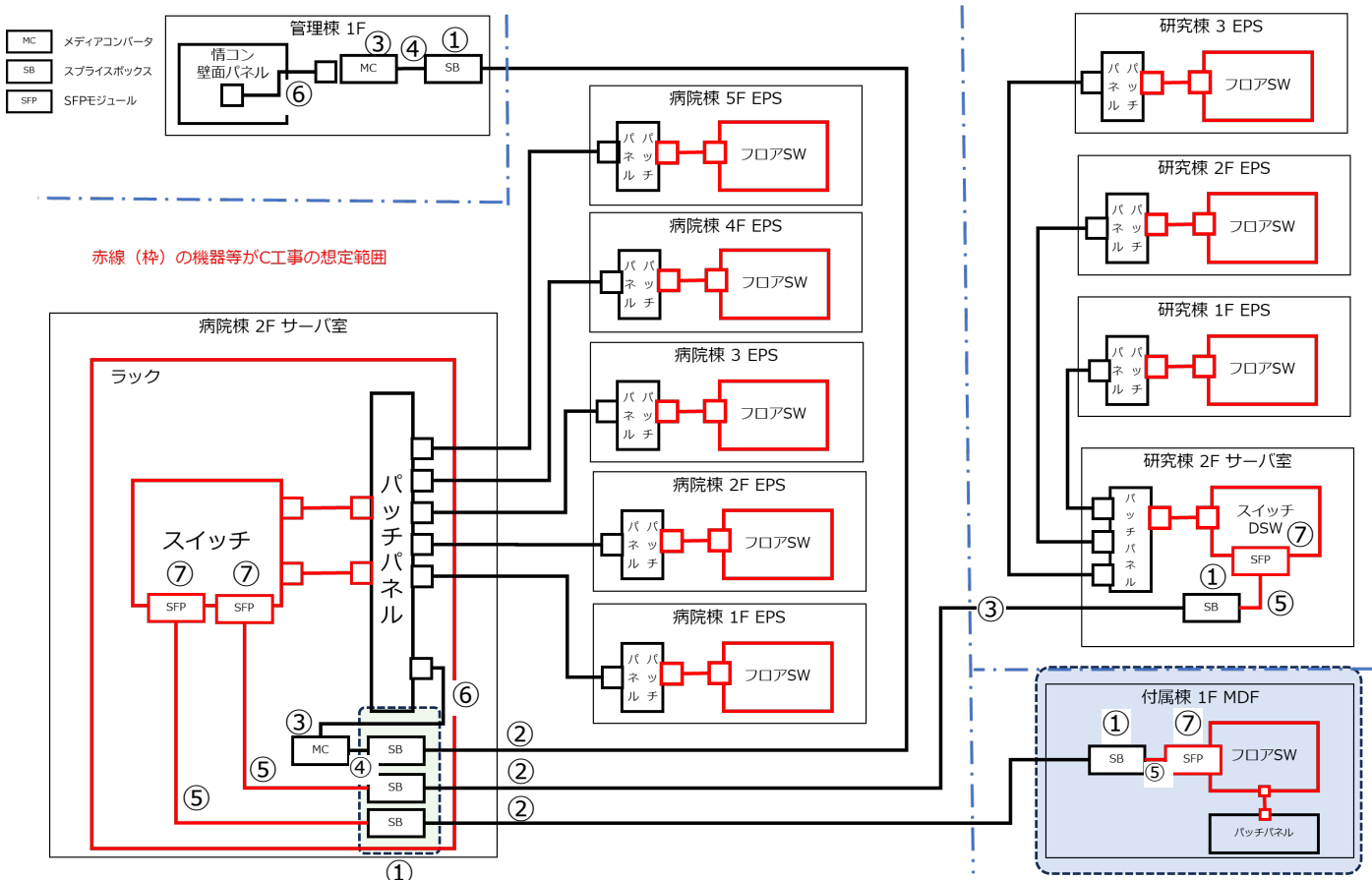
※サーバ室と各フロアEPSは無停電電源ではなく非常用電源となるため、サーバ室のスイッチ及び各フロアEPSのスイッチ用のUPSはC工事で用意する必要がある。

	工事内容	特記仕様	A工事 (建築工事)	C工事 (情報ベンダ工事)
①	場所S内設置用ラックの調達と設置	<div>□ サーバラックは、C工事業者決定後、約1.5ヶ月程度の納期が必要となる。納品後、引き渡し前にサーバ室に搬入できること。</div> <div>□ サーバラックはC工事業者からA工事業者に物品を提供し、A工事業者が設置する。（最終的にはA工事業者とC工事業者で協議の上作業区分を調整する。）</div> <div>□ C工事業者調達の仕様として、建物引き渡し前にA工事業者が管理する現場での作業が発生する可能性があることを明記する。</div>	△	○
②	場所S内設置用パッチパネルの調達と設置	<div>□ パッチパネルの設置は、サーバラックをサーバ室に設置後に実施すること。</div>	○	
③	場所S内パッチパネルと場所A パッチパネル間用UTPケーブルの調達と敷設	<div>□ パッチパネル側のコネクタは、使用するパッチパネルに合わせて処理すること。</div> <div>□ ケーブル両端に、経路を識別するネームタグを取り付けること。（ネームタグの命名規則は、C工事の業者と調整の上決定すること。）</div>	○	
④	場所S内パッチパネル、および場所A パッチパネルとパッチパネル間用UTPケーブルの接続		○	
⑤	場所Sおよび場所Aのパッチパネル間の通信テスト		○	
⑥	場所S内設置スイッチの調達・設置と調整			○
⑦	場所S パッチパネルとスイッチ間のパッチケーブル調達と接続			○
⑧	場所A パッチパネルとスイッチ間のパッチケーブル調達と接続	※ 場所A内の工事区分については「[HIS系] 各棟におけるフロアEPSと各部屋情報コンセント・無線AP間のネットワークにおける工事区分」参照のこと。		○

[HIS系] 施設間及び施設内フロア間のネットワーク



[HIS系] 施設間ネットワークにおける工事区分



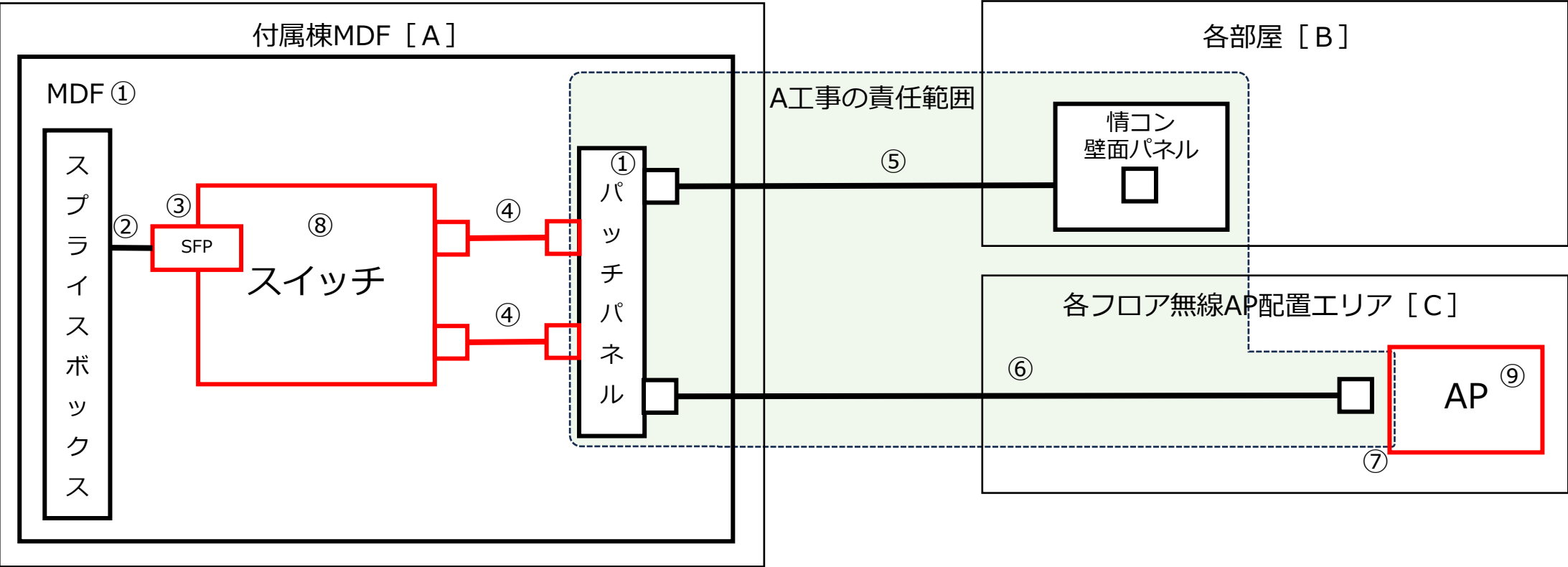
赤線（枠）の機器等がC工事の想定範囲

※付属棟については別資料参照

	工事内容	特記仕様	A工事 (建築工事)	C工事 (情報ベンダ工事)
①	病院棟、研究棟、付属棟、管理棟用のスプライスボックスの調達と設置		○	
②	病院棟、研究棟、付属棟、管理棟間の光ケーブルの調達と敷設、スプライスボックスとの接続	・ 病院棟－管理棟間の光ケーブルは、メディアコンバータ設置場所までの経路を確保すること。 ・ ケーブル両端に、経路を識別するネームタグを取り付けること。（ネームタグの命名規則は、C工事の業者と調整の上決定すること。）	○	
③	病院棟、管理棟用のメディアコンバータの調達と設置		○	
④	病院棟、管理棟内のスプライスボックスとメディアコンバータの接続（ケーブルの調達含む）		○	
⑤	病院棟、研究棟、付属棟の各スプライスボックスとSFP間の光ケーブルの調達と敷設	・ SFPと接続する側の終端はC工事業者が指定するコネクタとして終端処理すること。 ・ ケーブル両端に、経路を識別するネームタグを取り付けること。（ネームタグの命名規則は、C工事の業者と調整の上決定すること。）	○	
⑥	病院棟、管理棟のメディアコンバータと各終端間のUTPケーブルの調達と敷設及び通信テスト	・ 病院棟 2Fサーバ室内パッチパネルと管理棟情報コンセント間での通信テストを実施すること。	○	
⑦	病院棟、研究棟、付属棟の各スイッチのSFPモジュールの調達とスイッチへの接続			○
※	病院棟－研究棟間、病院棟－付属棟間、病院棟－管理棟間光ケーブルの通信テスト	・ 各接続点間および最終終端間での通信テストを実施すること。	○	
※	病院棟－管理棟間のメディアコンバータ間の通信テスト		○	



[HIS系] 附属棟におけるMDFと各部屋情報コンセント・無線AP間のネットワークにおける工事区分



	工事内容	特記仕様	A工事 (建築工事)	C工事 (情報ベンダ工事)
①	MDF盤及びパッチパネルの調達	・ 大学側のA工事として調達	○	
②	スプライスボックスとSFP間の光ケーブルの調達と敷設	・ 大阪市側のA工事で調達	○	
③	スイッチとSFPモジュールの調達及びスイッチへの接続			○
④	場所A パッチパネルとスイッチ間のパッチケーブル調達と接続			○
⑤	場所Aのパッチパネルから場所Bの情コンの壁面パネルまでのUTPケーブルの敷設及び接続、情コンのパネルの作成		○	
⑥	場所Aのパッチパネルから場所Cの無線APまでのUTPケーブルの敷設及びオス型コネクタの作成	・ 無線AP想定設置場所付近の点検口までUTPケーブルを敷設すること (点検口から5mの余長を確保すること。) ・ ケーブル両端に、経路を識別するネームタグを取り付けること。 (ネームタグの命名規則は、C工事の業者と調整の上決定すること。)	○	
⑦	場所Cの無線APの設置と無線AP用オス型コネクタ間の接続			○
⑧	場所A内設置スイッチの調達・設置と調整			○
⑨	無線APの調達と場所Cの電波調査と無線AP設置場所の決定			○
※	場所Aパッチパネルと場所B情報コンセント間の通信テスト 場所Aパッチパネルと場所Cの無線AP用オス型コネクタ間の通信テスト		○	